

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）

フリガナ) レイタクダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) カゴゼミ
麗澤大学	経済学部	籠ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ) ビスケッ	フリガナ) タキグチ ツヨシ	5	無
ビスケット	瀧口 毅		

研究テーマ（発表タイトル）

待機児童問題

1. 研究概要（目的・狙いなど）

いま日本で大きな問題となっている待機児童問題、それは私たち学生にとっても将来を考えれば無関係な話ではない。保育所に子供を預けられないがために働くことができない、そのため家庭の収入が少なくなるなどの深刻な問題も発生してくる。さらにとりあえず保育所を増やせばいいということでもない。なぜなら少子化が進むことにより子供の数が減少するため、将来的に保育所の収容人数が過剰となるかもしれないからだ。保育所の数を増やさずに待機児童問題を解消するために私たちは保育ママ制度を活用しようとする。しかし保育ママに不安を持つ保護者は多く、保育の選択肢の1つとして浸透していない。そこで私たちは、利用者による保育ママの評価とレビューを書いてもらうサイトを開設することを提案する。良い保育ママを探す手段を提供することで、保育ママに対する信用を築き、保育制度として社会に浸透させようという狙いである。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

私たちは5つの自治体（松戸市、柏市、我孫子市、流山市、荒川区）を対してヒアリング調査を行い、待機児童問題の現状と課題の把握を行った。

松戸市では28年度4月に行われた調査によると待機児童は0人である。しかしこの数字は無認可の保育サービスを利用している場合も含まれている。そのため実際の数字、つまり保留者は143人である。現在行われている取り組みは幼稚園の預かり保育の拡充、3歳以上の受け入れ先の増加、幼稚園と保育園の料金の均等化の3つの点に力を入れている。

柏市では27年度から待機児童は0人で現在もこれを持続しているが、こちらも保留者がいて人数は41人である。現在行われている取り組みは希望にあう施設の紹介、施設の新設、増築を活発化させている。

我孫子市では昭和61年度から待機児童は0人で、現在では保留者も0人である。現在行われている取り組みは休日保育事業、一時預かり事業、ファミリーサポートセンター事業の拡充である。ファミリーサポートセンターとは子育ての援助を受けたい人と援助を行いたい人が会員となり、その人たちを相互援助する組織である。

流山市では28年度4月に行われた調査によると待機児童は146人で去年に比べて約100人増加した。原因としては都市化による人口増加である。現在行われている取り組みは保育施設を毎年3ヵ所以上増築したり、送迎システムにより保育施設の選択肢の幅を広げたりしている。

荒川区では28年度4月に行われた調査によると待機児童は164人でこちらも去年に比べて100人以上増加した。現在行われている取り組みは保育施設の新設である。

3. 研究テーマの課題

対象とした自治体すべてに共通して言えることは保育施設の増設を一番の解決策だと考えているため、土地の確保と周辺の住民の理解が求められる、という点である。また我孫子市ではファミリーサポートセンターの活動を広く知ってもらう必要もある。

しかし少子化による子供の減少を考えると施設増築はあまり推奨できるものではない。そのため保育施設以外の方法を画策しなければならない。その方法として保育ママ制度があるのだが保育施設より使われていない。なぜなら保育資格を持っていなくても研修を受けることにより、保育ママとして活動ができるため信用性に欠けてしまう点、一般的にあまり知られていない点が要因として考えられる。そのため、保育ママへの信用の構築と制度としての社会への浸透が今後の課題となる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

保育ママ制度が保育の選択肢としてあまり普及していない背景には、保育ママと子供の相性、個別保育、保育ママの休み、料金が安い、給食がない、虐待等の悪意のある行為への不安、保育ママに万一のことがあった場合の対応、保育ママの質の保証といった問題がある。

相性の問題は、保育所ならばたくさんのスタッフがいるため、一人が合わなかったとしても他の人が対応できるのに対して、保育ママでは1対1であることが多いので、合う人を探せるかということである。ただ、これはお試し期間のようなものを設ければ解決できると考える。

個別保育の問題は、1対1であるためほかの子たちからの刺激を受けないことになり、社会性を育むことができないことである。これは保育ママ同士が連携することで子供たちの交流の場を設けることにより解決できる。この保育ママ同士の連携は、保育ママがやむを得ず休む場合にも対応できる。

料金と給食の問題は、保育所に比べて利用料金が安く、保育ママ制度では給食がないので、保護者がお弁当を作って持たせなければならない手間と時間がかかることである。しかし、費用補助によって利用者の負担を軽減している自治体もあり、この問題は保育所整備よりも保育ママの活用を力を入れるという行政の姿勢によって解決できるだろう。

以上の問題は前述のように比較的容易に解決策を考えることができるが、残りの3つの問題解決は容易ではない。まず、虐待等の悪意のある行為については、未然に防ぐために保育ママへのカウンセリングを行ったり、監視カメラを設置したり、といったことが考えられるが確実に防げるわけではない。監視カメラについては心理的な抵抗感を持つ人もいると考えられ、保育ママのなり手が減少するということにもなりかねない。次に保育ママに万一のことがあった場合については、例えば保育中に保育ママが倒れるといった事故であり、保育ママが一人の場合に対応することができない。これにおいても監視カメラを設置することによって対応できるが、同じように心理的な抵抗感を持つ人がいるだろう。最後に、保育ママの質の保証については、資格や経験年数といった情報だけでは、良い保育ママなのかどうか利用者は判断できないだろう。

これら3つに共通して言えることは第三者の目がないために起きてしまう問題である、ということだ。ならば第三者の目を作ればいいのではないかと考え、私たちは利用者の評価とレビューを書いてもらうサイトを開設することを提案する。これによって保育ママに対する第三者の評価を知ることができ、良い保育ママを探すことや、保育ママ制度の良い点を知ることができるようになる。保育ママ側にとっても、良い評価を得られれば絶え間なく利用者が得られるので仕事として安定するというメリットがあり、ひいてはより良い保育を工夫するモチベーションにつながるだろう。さらに、虐待等の悪意のある行為をする人の評価は当然低くなるので淘汰され、結果的に良い保育ママだけが残り、保育制度としての信用を築くことにつながる。また、監視カメラの設置は利用者にとっては高評価につながるため、カメラを設置する保育ママが増えると考えられ、不慮の事故の抑制効果も期待できる。一方、未だ利用者の評価やレビューを得られていない新規参加が困難になる可能性も考えられるが、

自分の保育を利用者にアピールしたり、良い評価が得られている保育ママに弟子入りして推薦してもらったり、といった工夫をすることにつながるので新規の保育ママの質を保つ効果があるだろう。

以上のから、私たちの提案するサイトの開設は、保育ママ制度の信用を構築するだけでなく、広くネットワーク上で情報を公開することで、保育制度の選択肢として社会に浸透させることができる。そうすれば、保育所の増設によらなくても、保育ママにより待機児童をなくすことが可能であると考ええる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

〈現状と課題把握のためのヒアリング調査〉

- 8/5 松戸市幼児保育課 遠藤さん
- 8/25 柏市保育運営課 山田さん、松田さん
流山市子ども家庭課 熊井さん
荒川区保育課 小幡さん
- 8/26 我孫子市保育課 和田さん、前林さん

6. 結果や今後の取り組み

7. 参考文献